



森田増範議員

「集落出前説明会」

要望あれば出向きたい

問 農地・水・環境保全対策事業は、集落住民で計画をつくり、共同作業での水路の泥上げや、農道沿いの草刈り、また子どもたちを巻き込んだ体験イベント等、近年疎遠になりつつある集落内コ

ミュニティー再生へのきつかけづくりとしてユニークな事業である。幸い、平成20年度の事業参加申込みが可能となった。現在、中山間地直接支

交付金制度に該当していない平坦地集落には、積極的に働きかけ、参加促進に努められたい。その手法として、集落住民に事業内容や事例等を示し、やる気を起こしてもらう集落出前説明会の実施を提案する。

答 (山口町長)

農林水産省では、来年度の事業申請に向け、事業拡充と事務手続きの簡素化について検討が進んでいる。

各集落へは、参加に向けた積極的な働きかけと支援が必要と考えており、今後具体的な資料が整いつつある。説明会を開き、多くの集落参加に向けて推進する。

その中で、要望をいただければ集落に伺っての説明会も行いたい。

文化祭一会場化

三地区合同実行委員会で協議

問

文化祭一会場化は、行革審の答申では、平成20年度に協議、21年度に実施が示されている。

地域づくりの活力を考える時、一会場化は、それぞれの地域で培われ、育まれている地域の力を減ずるのではないかと懸念する。

それぞれの地域住民にとって、身近な場所での文化イベントは、参画する者、来場する者、それぞれにコミュニケーションづくりとして、ふれあいの場、心のよりどころとして欠かせない。今後どう取り組むか、見直す考えはないか。

答 (小原教育委員長)

これは、関係者の労力や一体的なまちづくりの観点に基づき、来年から会場を一つにして開催しようとするものである。

一会場化は、すべての分野を一つにするのではなく、「文化・芸術分野」を中心し、一つにしようとするもので、一緒にできないものもある。



オープニングを飾る名和っ子よさこいソーラン

もう一つの理由として、文化祭運営は参加団体と行政職員が協力して開催しているが、これからは、もっと町民主体の開催に移行できないか考えているところである。

今後は、3地区合同の実行委員会を開催し、一会場化に向けた具体的な内容について、協議を重ねていく。



集落をあげて取り組む農地・水・環境対策 (国信)